

Rohm Music Friends[♯]

ローム ミュージック フレンズ

2023.3 | No.15

—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—



シルヴェストロ・レーガ「The starling's song」1867年
© Bridgeman Images / amanaimages



ローム ミュージック ファンデーションは
音楽を通して
豊かな文化をつくることを
目指しています。



Rohm Music Friends

No.15
2023.3

目次

- P03 活躍する奨学生 インタビュー
- P07 ローム ミュージック フェスティバル in Tokyo
- P09 Ken Sato Memorial Concert
- P13 ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT
- P14 Kyoto × Classics
- P15 新国立劇場
高校生のためのオペラ鑑賞教室・京都公演
- P16 ローム クラシック スペシャル
コパケン・ワールド
- P17 ローム ミュージック フレンズからの便り
- P23 ロームシアター京都 ミュージックサロン
- P25 奨学生一覧

「ローム ミュージック フレンズ」とは

1991年の創立時以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業で関わった音楽家。
2023年2月現在 計4,732人
※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

奨学生	国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。	525人
音楽在外研究生	音楽家の一層の研鑽をはかるための在外研究を援助。	64人
ミュージックセミナー受講生	ローム ミュージック フレンズが講師となり、 世界を舞台に活躍する音楽家の育成を目的としたセミナー。	8人
音楽セミナー受講生	プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。 現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。	333人
京都・国際音楽学生フェスティバル出演者	国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から 音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。	2,635人
小澤征爾音楽塾 塾生	オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。	1,422人



活躍する 奨学生 インタビュー

VOL.15

Tomoko Akasaka

赤坂 智子 [ヴァイオリン]

2005～2008年度奨学生

給付時の在籍学校:
ジュネーブ音楽院



Profile

ジュネーブ音楽院にて今井信子女史に師事と同時に同校助教およびヌシャテル音楽院客員教授を経た後デュッセルドルフ音楽大学にて後進の指導に当たり、現在ミュンスター音楽大学教授と共にライブチヒ音楽大学客員教授を兼任する。在学中より、セイジ・オザワ松本フェスティバル、NHK名曲アルバム等に出演、リサイタルや室内楽コンサートの模様が多数放映、放送されている。海外では、スイス・ルツェルン、ヴェルビエ音楽祭、オーストリア・ザルツブルグ音楽祭等に常時招かれ、コンサートではコンサートヘボウ、ベルリン・フィルハーモニーホール、エルブ・フィルハーモニー、トーンハレ、ウイグモアホール、ムジークフェラインなど各地の主要ホールにて室内楽、リサイタルに出演している。これまでに、ギドン・クレーメル、ユーリ・バシメット、パトリチア・コパチンスカヤ、アンドレアス・オッテンザマー、ダニエル・ホープ各氏、カルテットエペーヌ、クスカルテット、エルサレム四重奏団等と共演し、ソリストとしては、パイエルン放送響、クレメラータ・パルティカ、フルシヤフ放送響、ミュンヘン、ジュネーブ室内管弦楽団、日本フィル等と共演している。第53回ミュンヘン国際音楽コンクール第三位受賞。パリ Edmund Pendreton 財団よりミュージシャン・オブ・ザ・イヤー受賞。2022年度ではハンブルグバレエ団とマイケル・ティベットのトリプルコンチェルトにて共演し好評を博した。

— 赤坂さんが音楽を始められたきっかけをお教えいただけますか。

私自身、音楽が好きでよく歌っていました。楽器に関しては、どうやら私が6歳ごろにヴァイオリンをやりたいと言ったようなんです。でも記憶には無いんですね。音楽とは全く関係の無い家庭だったので、ヴァイオリンは、音楽家になることが目標というより、趣味で続けていました。

— プロになると決心されたのはいつごろだったのでしょうか。

中学校2年生のときに決めました。自宅の近所の先生に習っていたころ、先生から「プロになりたいんだったらなれるわよ」という風に言われたんですね。その後、先生のご紹介で桐朋学園の先生に師事するようになったときに、同年代の生徒さんでこんなにすごい人たちがいるんだって、カルチャーショックを受けました。そこから少し焦って、中学校2年生あたりに、プロになる、桐朋学園大学の付属高校を受験すると自分で決めたんだから、死ぬ気で勉強しよう、そこからは必死に頑張ったことを覚えています。

— プロになると覚悟し入学された桐朋学園にて高校3年間を過ごした後、留学されました。国内の大学に進学するのではなく、留学を選択された理由は何だったのでしょうか。

高校は楽しかったんですけど、なんとなく私のやりたいことは少し違う感じがあったんです。やはりあとは、学費が高いけれど親に金銭的に頼りたくないという思いがありました。金銭的な援助をしてもらったなら相当面白いと思える動機がないといけませんが、その動機が私には足りなかったという感じでした。加えて、私は小さいころから海外に行くのだからと、それとア



©堀田 力丸



2005年/コンサートツアーで初めて行った中国。合間に万里の長城に遊びに行きました。寒すぎると雪も降らないんだと学んだ日。

2005年/中国 北京にて。

リカじゃなくてヨーロッパだなんて。そんななか、高校生のときにフランスでの講習会に行った際に、バルトークカルテットのチェリストの先生に気に入っていただいて、「あなたブダペストにおいて」って言われて。そのときはピンと来た! と思って、ハンガリーに留学することとなりました。

— ハンガリーではリスト音楽院で学ばれました。

当時のハンガリーは社会主義体制から転換して10年ほど経った時期でした。ですから授業の言語はハンガリー語以外だとロシア語しかなく、留学してから毎日ハンガリー語のレッスンを受けていました。やはりハンガリーの音楽は今でも民族的に身近に感じますね。あまり教えられなくてもリズムなど、できる感覚があります。

— リスト音楽院には何年間在籍されたのでしょうか。

一年ほどで日本に帰ることになりました。ハンガリーで師事していた先生が亡くなってしまったことに加えて、ハンガリーと西ヨーロッパとの文化的、経済的な距離が思ったよりもあると感じたんです。また日本人コミュニティのようなものに馴染みがなくて孤独でしたし、なによりハンガリーに留学している他の方を見て、これは私の道ではないなと思い、本当に短い期間で日本に帰りました。

— 日本に帰国後、ヴァイオリンからヴィオラに転向されましたね。

そうですね笑 高校の副科の授業で私はヴィオラを選択していたのですが、その副科の岡田伸夫先生から「あなたは才能があるんだからヴィオラに転向しなさい」と言われていたんです。そんな声を振り切って、ハンガリーに留学をして、帰って



2006年／クリスマスは帰郷しない留学生にとってはちょっと寂しい時期です。友人たちと集まって手作りクリスマスパーティーをしました。クリスマスプレゼントのカモのパジャマを着てケーキ作り。

2006年／ジュネーブの夏。泳ぐのが好きだったので、私を探すならスーパーマーケットかレマン湖を探せと噂になるほど毎日湖で泳ぎました。いつも水着を着ていた記憶があります。

きたら日本で師事していたヴァイオリンの先生が亡くなられていて…。気が付いたときには、桐朋学園にヴァイオリストとして入っていたんですね。だから最初は納得がいなくて、しょうがなくヴィオラもヴァイオリンも続けていました。そしたら、ヴァイオリニストとしての仕事よりもヴァイオリストとしての仕事の方が増えてしまい、仕事が無いなら練習しなくていいや、となって笑。そういった感覚で、覚悟してヴィオラをやるうなんて思ったことがないですよ。これが私の楽器だなんて思ったことがなく、最近になってやっと、かすかに思う程度です。

— ヴィオラはどなたに師事をされていたのでしょうか。

桐朋学園で岡田先生に師事していました。最初は誘拐されたみたいな形で急に始まったので、とても反抗していましたね。最後は和解できて今ではとても感謝しています。その後、チェロの山崎伸子先生に少し習っていたこともありました。「ヴィオラ専攻の人に教えることなんて無い」と言われても、「そこをどうかお願いします」といながらレッスンに行っていたことを覚えています。

— 山崎先生に少し学ばれていたところに、ミュンヘン国際音楽コンクール ヴィオラ部門で第3位に入賞されたのでしょうか。

そうですね。本当にそのころ先生がいなかったんです。ただ、今井信子先生がサイトウキネンフェスティバルの関係で日本にいらっやっていたので、コンクール直前に一度だけ長いレッスンをしていただきました。それがコンクール前の唯一のレッスンでした。

— ミュンヘン国際音楽コンクールでのお話をお聞かせいただけますか。

セミファイナルステージにも進めると思っていたので、ファイナルステージで演奏する曲の楽譜も持っていなかったんです。ファイナルステージを棄権します、と事務局に言ったら、名誉なことなんだからステージに立っているだけでいいから、と説得されましたね。現地で私の友人が楽譜を買ってきてくれて、それを二日間で暗譜して…。三日間くらいで8キロ痩せましたね。ファイナルステージ当日、目が覚めたときにこのまま夜が明けないでほしいと思ったのを覚えています。そのときは本当に周りの人に恵まれて、私の靴下まで洗ってくれるような友人や、通訳してくれる友人などがいて、そして日本人の公式伴奏者の方が送り迎えをしてくださって…。私がどうだったというより、いろんな方が支えてくださった記憶が強いですね。ファイナルステージでは、アントワン・タメスティというヴァイオリストが第1位を受賞しましたが、私は彼のファンで、「第一ラウンドも第二ラウンドもほとんど聴いて、「最高でした」と毎回言いに行っていました。その後、セミファイナルで会って、「え？あなたはヴァイオリストだったの!？」と言われたのを覚えています。

— ミュンヘン国際音楽コンクール入賞後に、ローム ミュージック ファンデーションの奨学生としてジュネーブに留学されました。留学先としてジュネーブを選ばれた理由をお教えてください。

コンクールで入賞後、この先どうするか分からないまま日本に帰ったんです。そうしたら今井信子先生が「あなたはジュネーブよ」って言って、今井先生に師事するという感覚もないまま、気が付いたらジュネーブでの留学生活を用意されていました。ありがたいけれど、ジュネーブなんて物価が高くて絶対留学できない、どうしよう、というときに必死の思いで応募したのがローム ミュージック ファンデーションの奨学金でした。



©堀田 力丸

— 4年間の奨学生時代で印象に残っていることはございますか。

留学先がスイスで良かったなと今思うのは、ヨーロッパのなかでは一番日本に近いということです。人も礼儀正しいですし、綺麗好きですし、日本と似ているかな、と。その当時は日本に似ているなんてつまらないと思っていたんですけど、今となってはそれがクッションでドイツに移ったときにスムーズに生活できたのかな、なんて思います。ジュネーブはフランス語が公用語ですが、はじめはフランス語が分からなくて大変でしたね。同居人の方が話すフランス語をノイズだと思ってしまい言語だと認識するまでに時間がかかっていたりしていました。生活に関して言うと、ジュネーブは街が小さく手続きなどの予定もすぐ終わるんです。だから今日一日何をしようかと時間を持て余したのが最初の一年でした。日本でのパタパタした生活に慣れていましたから、時間があることがカルチャーショックでしたね。

— ジュネーブで学びつつ、その後、音楽活動をしていくなかで、印象に残っている公演についてお聞かせください。

どれもが印象に残っているんですけど、ウォルトン作曲のコンチェルトを演奏した公演が印象に残っていますね。出演予定だった指揮者が、ご病気の影響で指揮ができず、リハーサルですら曲が止まってしまうので、急遽、弾き振りをすることになって…。指揮をやったことがなかったので、耳で聴くしかないんですけど、耳が曲を覚えていてオーケストラに指示を出せたので、逆に自信になりましたね。ただ、演奏をしながら動くのが（オーケストラに合図を出すのが）大変でした。

— 今はベルリンを拠点に後進の指導もされていますが、指導されている際に感じられることはありますか。

時代が変わっている感じがとてもしますね。私が学生だったときは、マエストロという人の言う

2007年／クラスの弾き合い会。



©堀田 力丸

ことが絶対で、それにハマる人はいいんですけど、ハマらない人は辛い思いをするという感じでした。今は生徒が自分の意見、存在を大事にしている、教える側と対等な関係性を築いていますから、教える側も強要する感じではないですね。それぞれの人に最適な情報を、どのように言ったら上手く伝わるか、というのはよく考えています。ただ彼らの将来を背負って立つという風には思っていないので、彼らが納得する選択ができるような人になるサポートができれば、と思っていますね。

— そんな赤坂さんから音楽家を目指して研鑽を積んでいる方へのメッセージをお願いいたします。

自分の意見を探す時間を無駄にしないでほしいと思いますね。簡単に言うと「自分自身とお付き合いする」という感じです。実際どのように行動するかは別として、自分の考えを探ること、そして認識することに時間を惜しまなければ絶対後悔しないよ、と伝えたいです。

— 最後に、これから挑戦したい活動などあればお教えてください。

今まで長いことヨーロッパで活動し続けるための努力をしてきました。ただヨーロッパでの演奏活動に余裕が出てきたので、これからは日本での公演も少し増やして、これまでの経験を活かすような、ヨーロッパと日本の橋渡しみたいなことができたならなあと考えています。

国内外で活躍するローム ミュージック フレンズなど豪華出演者による音楽祭!

ROHM MUSIC FESTIVAL 2022 in TOKYO

ローム ミュージック フェスティバル2022

2022.10/1[土] 紀尾井ホール



2022年10月、初めての有観客公演となる「ローム ミュージック フェスティバル in TOKYO」を開催しました。「ローム ミュージック フェスティバル」は、ローム ミュージック フレンズが一堂に会す音楽祭で、音楽ファンの拡大を図ることを目的に2016年よりロームシアター京都にて開催しています。2021年からはより多くの方にクラシック音楽をお楽しみいただけるよう東京公演を開催しています。

2021年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大によりオンライン配信のみとなりましたが、2022年は有観客コンサートとオンライン配信の両方を実施し、ローム ミュージック フレンズの素晴らしい音楽をより多くのお客様にお届けしました。

前半にはドヴォルジャークのピアノ五重奏曲を披露し、後半は弦楽合奏のプログラム。A. ピアソラ作曲 (L. デシャトニコフ編) の『ブエノスアイレスの四季』では、楽章ごとに異なるソリストが合奏団の中から中央に歩み出て演奏するという形式でお送りしました。

ソリストそれぞれの色で演奏される四季に、会場は大きな拍手で幕を閉じました。



撮影: Ayumi Kakamu



A.ドヴォルジャーク ピアノ五重奏曲 イ長調 Op.81 B.155

植村 太郎 / 瀧村 依里 (ヴァイオリン)、
田原 綾子 (ヴィオラ)、佐藤 晴真 (チェロ)、
吉田 友昭 (ピアノ)

E.グリーグ 組曲「ホルベアの時代より」 Op.40

植村 太郎 (コンサートマスター)
尾池 亜美 / 小川 恭子 / 北川 千紗 / 黒川 侑 /
周防 亮介 / 瀧村 依里 / 谷口 いづみ /
中島 麻 (ヴァイオリン)
金本 洋子 / 鈴木 るか / 田原 綾子 (ヴィオラ)
奥田 なな子 / 上村 文乃 / 佐藤 晴真 (チェロ)
高橋 洋太 / 松隈 崇宏 (コントラバス)



A.ピアソラ(L.デシャトニコフ編) ブエノスアイレスの四季

ブエノスアイレスの春 独奏: 小川 恭子 (左上)
ブエノスアイレスの夏 独奏: 周防 亮介 (右上)
ブエノスアイレスの秋 独奏: 黒川 侑 (左下)
ブエノスアイレスの冬 独奏: 尾池 亜美 (右下)

ローム ミュージック フェスティバル特設WEBサイト

出演するローム ミュージック フレンズのフェスティバルに向けた意気込みも掲載予定。
また、過去のフェスティバルのダイジェスト映像もご覧いただけます。



Ken Sato Memorial Concert

～ショパニスト海老彰子が贈る色彩のうつろい～

かつてピアニストを目指していたロームの創業者佐藤研一郎は、会社を起業してからも音楽を愛する気持ちを持ち続け、私財を投じて「ローム ミュージック ファンデーション」を設立し、若い音楽家への支援やコンサートの支援など多くの活動を実施してきました。

ローム ミュージック ファンデーションは音楽をより多くの方に届けたいという佐藤研一郎の意志を末永く紡いでいくため、毎年1月に美しい花々に囲まれたステージで一流の音楽家によるコンサートを開催しています。



第2回目となる今回は、日本ショパン協会の会長でありショパン国際ピアノコンクールの審査員も務められたピアニスト 海老彰子さんをお迎えし、ロームシアター京都サウスホールにて2023年1月15日に開催しました。

当日のプログラムはオール・ショパン・プログラム。ノクターンの中から5曲と、バラード、マズルカなどが演奏されました。佐藤研一郎が好んで聴いていた「ノクターン 第2番」のオリジナル版と、ショパンの愛弟子ミクリが編纂した「ミクリ版」と2パターンで演奏するという珍しいプログラムも披露され、当時のショパンの演奏の様子が伝わる興味深い内容を多くのお客様が楽しめました。

アンコールでは幻想即興曲などの有名曲を3曲も演奏していただき、コンサートは熱気に包まれ、幕を閉じました。



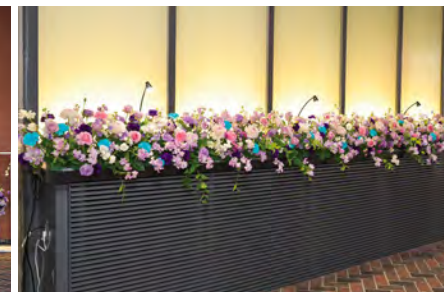
Ken Sato Memorial Concert

「お客様にお喜びいただけること」に重きを置いていた佐藤の想いのもと、当日はホールやホワイエに生花を飾り、ご来場いただいた皆様にその花をお持ち帰りいただきました。

ホール入り口に設置したウェルカムボード



ホワイエの様子



ホールの様子



お花をお持ち帰りいただく様子



撮影：佐々木卓男

情報誌「ローム ミュージック フレンズ」No.2、No.3に、佐藤研一郎と小澤征良氏との対談を掲載しています。佐藤の音楽への思いなどは非ご覧ください。

こちらのQRコードからご覧いただけます

No.2



No.3



Ken Sato Memorial Concert

インタビュー

～Ken Sato Memorial Concertに寄せて～

Ken Sato Memorial Concert Vol.2に出演されたピアニストの海老彰子さん。ショパン国際ピアノコンクールのことや、音楽を志す方へのメッセージなどをコンサートの前日に伺ってきました。

ピアニスト

海老 彰子 *Aiko Ebi*

©Akira Muto



Profile

パリと東京を拠点に活躍する、本格実力派ピアニスト。たおやかな日本人らしさを忘れない温かみのある人柄は、世界中の演奏家から厚い信頼を得ている。東京藝術大学在学中に第41回日本音楽コンクール優勝後、フランス政府給費留学生として研鑽を積む。パリ国立高等音楽院最優秀首席卒、同研究科卒。ロン・ティボー国際コンクールで第2位グランプリと4種の特別賞をA.ルービンシュタイン氏等から受けるほか、ショパン国際ピアノコンクールの上位に入賞して以来、世界37か国で活躍している。仏政府から文芸シヨバリ工勲章、パリ名誉市民メダル、エクソン・モービル音楽賞本賞(日本)等を受ける。アルゲリッチとのピアノデュオ・コンサートは全欧州各国や日本でもテレビ放映され、大いに好評を博した。近年、後進の育成にも力を注ぎ、世界各国からマスタークラスの依頼も多い。第8回及び第9回浜松国際ピアノコンクール審査委員長。ロン・ティボー等多くの主要国際音楽コンクールに審査員として携わり、第17・18回ショパン国際ピアノコンクールでも審査員を務めた。横浜市招待国際ピアノ演奏会企画委員長。元日本大学芸術学部大学院教授。元東京藝術大学ピアノ科客員教授。日本ショパン協会会長。

— 今回のプログラムがオールショパンということで伺いたのですが、これまでいろいろな賞を受賞してこられたなかで、ショパン国際ピアノコンクールに挑戦されたきっかけを教えてください。

私の父は全くピアノのことについてとやかく言わない人でした。10歳の頃、先生からこの曲を勉強しなさいと宿題を貰いますでしょ。そうしたら父は黙ってその曲のレコードを仕事帰りに買ってきてくれました。口出しは一切しません。

ところが、1980年の1月3日パリに居る私に東京から父の手紙が届き、その中に「今年ショパン国際ピアノコンクールを受けてみてはどうか?」と書いてありました。珍しい父からの言葉に初めは「え〜?」と驚きましたが、そのときから次第にコンクール受験を考えるようになりました。父から勧められたのは、後にも先にもこれ一回です。

— 日本ではショパン国際ピアノコンクールは別格のような人気をもっているように思いますが。

日本人のショパンへの愛情は特別ですね。東洋人のこのコンクールに対する情熱は沸騰しているように思いますが、その中でも日本は頭抜けて凄いです。「琴線に触れる」そういう音楽をショパンに感じるんじゃないかなと私は思います。

— ショパン国際ピアノコンクールに審査員として戻ってきて、受けていた立場から今は審査をする立場となられたわけですが。

大変な責任です。2021年秋、ワルシャワに行く前は、「3週間ずっとショパンばかり聴くのは大変だな」と恐れをなしていましたが、実際行ってみるともう興味津々で、全然疲れなかったんですよ。もちろん、疲労はありますよ。しかしそれぞれ皆さんの表現が面白いんですよ。今後どういう風にショパン国際ピアノコンクールが変わっ

ていっか、これからの面白さ、益々出てくると思います。

— 以前に比べて日本人が上位に残っていく確率、人数がずいぶん増えてきたのかなと思うのですが。

日本人、物凄く成長しています。ショパン国際ピアノコンクールに限らず、これからどんどん優秀な人が出てきますよ。近年、私はマスタークラスなどで年に数回音楽大学などで指導していますが、高校生の中にも大変優秀な人も居り、本当に将来楽しみな音楽家が育っています。

— ワールドワイドに活躍されている海老さんから見て、現在の日本のクラシック業界というのは、世界的に見てどういう状況にあるんでしょうか。

日本の文化というのは、今こうして佐藤研一郎様のお話を伺っても思いましたが、本当に第一級の良質なものを求めますね、そこが凄く強いと私は思います。1991年に私は初めて国際コンクールの審査員の役を仰せつかりましたが、そのころは日本の人たちは、弾いてはいるのですがここ(心臓をおさえながら)に訴えて来ない。それが今は違っていて、後が益々楽しみだと思えます。技術的な成長には目を見張るものがあり、恐らくYouTubeなどで簡単に色々な人の演奏も聴けるようになったのも大きな影響の一つでしょう。歴史や伝統に残る演奏家の水準に至る人たちが輩出し始めているということですね。ただ、問題は我々は生き物だから、どのように今後発展してゆくかということです。ワイン作りで申しますと、どういふにワインが醸造されて味わい深いものに成長するか、それが問題なんです。同時に大切なのは、聴衆がこの人かと思う人達を援助する。それが今後つながってゆくと思います。

— 若者が音楽を学ぶ環境について、国内外含めた今の課題は。

日本の先生方に温かく支えられ、外国の先生の教えも受ける事が出来たり、海外で勉強した音楽家が帰国され若い人たちに教えるを伝えてくださったりで学ぶ機会も沢山あって、レベルが向上していますね。現在はパソコンや電話にひとつ手を触れさえすれば情報がゲット出来る社会です。しかし実社会はそう簡単に会得出来ないことが多くあり、外国に行っても痛い思いをしながら日本人とは違う考え方、言葉の異なる社会で揉まれながら、タフな気概を持って果敢に人生に挑んで行かれることを、そう簡単な道は無いことをとどろん経験されていくのが良いと思います。

— 我々も含めて支援する側の今後の活動に期待する点や、もっとここにスポットを当てた方が良いと思う点など、ご意見をいただけますか。

私は佐藤研一郎様とは直接お目にかかることはできませんでしたが、我々音楽関係者は佐藤様の創設されたルームとルーム ミュージック ファンデーションから、実到大勢の方々が筆舌に尽くせぬ多大な援助を受けております。どれだけ感謝してもきれない我々です。佐藤様が貫かれた人生の哲学を、我々音楽家にお伝え頂くことによって、自分達それぞれに考える力が促され触発されること、間違い無いと思います。私の経験を申しまして19歳の頃、当時の安宅産業の安宅英一氏から受けたご援助に、日本文化の最高のモノを沢山見せて頂く機会がありました。お相撲やオペラ、演奏会鑑賞、はたまた会社の方々と共に夏の海水浴に招待されたり、その都度美味しいお食事まで馳走になっていました。留学前には富士山山前の素晴らしいホテルに招待され、美しい日本の国に居る事の純粋な喜びを感じました。第一級のものとは何か?を無言で色々教えて頂いたことは、後に留学生活が始まってから、日本人としての誇り、日本文化への自負を認識し、それを体験したことによって自ら前進するエネルギーを得たことは否めません。彼の恩恵を受けた方々に、中村紘子、堤剛、野島稔、谷桃子(敬称略)その他大勢おられます。

— 最後に、音楽家を志す方や今活躍されている音楽家に向けてのメッセージをお願いします。

力となるのは継続と忍耐と情熱ですね。まずそれが1番でしょう。それと良い友人を持つこと、何でも話せる人。長い人生いろんな時があります。独りだけですと本当に大変ですからね。

撮影:佐々木卓男



新規委嘱の30周年記念曲とともに
日本全国にオーケストラの音楽をお届けする特別企画!

ROHM MUSIC FOUNDATION 30TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.1

京都市交響楽団 プレミアム・コンサート in 京都



ローム ミュージック ファンデーションは1991年に設立されて以降、若手音楽家の育成やコンサート支援など、音楽文化の普及と発展のためさまざまな活動を継続して行っており、2021年に設立30周年を迎えました。設立30周年を記念してより多くの方に音楽の素晴らしさを知っていただくため、今後数年にわたって全国各地でオーケストラのコンサートを開催するプロジェクトを始動しました。

設立30周年記念曲として岩代太郎氏に委嘱した「東風慈音ノ章(こちじおんのしょう)」の世界初演が、指揮の角田鋼亮氏と京都市交響楽団の演奏で実現されました。タイトルのように躍動感に溢れた音楽で、一瞬にして別世界へ誘われました。2曲目のエルガーのチェロ協奏曲には日本を代表するチェリストでありローム ミュージック フレンズの佐藤晴真氏が登場し、その素晴らしい響きに多くの拍手が送られました。



メイン曲であるドヴォルジャークの「新世界より」の前には、司会の朝岡聡氏によるわかりやすい楽曲解説が行われ、お客様には曲に対する理解を深めてから演奏をお楽しみいただきました。今後プロジェクトは数年かけて全国各地で開催いたします。ぜひお近くの会場で開催の際は足をお運びください。

撮影：佐々木卓男

名称	ROHM MUSIC FOUNDATION 30 TH ANNIVERSARY PROJECT Vol.1 京都市交響楽団 プレミアム・コンサート in 京都
日程	2023年1月25日(水) 19:00開演(18:00開場)
会場	ロームシアター京都メインホール(京都市)
出演者	指揮者: 角田 鋼亮 チェロ: 佐藤 晴真 (ローム ミュージック フレンズ) 管弦楽: 京都市交響楽団 司 会: 朝岡 聡



歴史ある京都の名所と伝統あるクラシック音楽を結ぶオンラインコンサート

「Kyoto × Classics」

京都とクラシック音楽。

歴史ある京都の名所と伝統あるクラシック音楽をローム ミュージック ファンデーションが結びます。ローム ミュージック ファンデーションが過去に支援し国内外で活躍する音楽家「ローム ミュージック フレンズ」が京都の名所で行うコンサートをオンラインでお届けする「Kyoto × Classics」。

当公演のアーカイブ映像は「ローム ミュージック チャンネル」にて無料で配信しております。ここでしか感じることでしかない「京都」と「音楽」の世界をぜひご覧ください。



配信中のローム
ミュージック
チャンネルはこちら



Vol.1



Vol.2



Vol.3



Vol.4



Vol.5



Vol.6

撮影：佐々木卓男

タイトル	演奏者	MC
Vol.1 常寂光寺～古の緑に包まれた2人のチェリスト～	チェロ: 中木健二、佐藤晴真	中村葵
Vol.2 元祇園二条城～悠久の歴史を纏う名城に響くピアノの調べ～	ピアノ: 日高志野	別所哲也
Vol.3 増田徳兵衛商店～伝統と革新を醸す伏見酒蔵に響くチェロの調べ～	チェロ: 笹沼樹	古坂大魔王、中村葵
Vol.4 帯屋捨松～クラシックギターが紡ぎ織り成す西陣の夕べ～	クラシックギター: 山下愛陽	山口智充
Vol.5 大覚寺～平安より受け継がれし寺院に華やぐピアノ三重奏の響き～	ヴァイオリン: 小林美樹、チェロ: 上村文乃、ピアノ: 阪田知樹	佐々木蔵之介
Vol.6 常寂光寺～歌人の愛した紅葉が誘うフルートとハーブの愉しみ～	フルート: 上野暉矢、ハーブ: 景山梨乃	水夏希

ローム ミュージック フレンズからの

お便り

The letter from rohm music friends

ローム ミュージック フレンズから届いたご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名 [専攻] 援助年度
給付時の在籍学校



オペラの魅力

むらかみ としあき
村上 寿昭 [指揮] 2000, 2001年度奨学生
ウィーン国立音楽大学

ウィーンに留学していなければ、こんなにもオペラ好きにはなっていなかったと思います。留学中は歌劇場に通い、素晴らしい公演を何度も観ることができました。またリハーサルを見学し、トップクラスの「現場」を目の当たりにしました。その後、ドイツで毎日のようにオペラを指揮し、帰国後も歌手と過ごす時間を楽しんでいます。「市民に愛され日常にあるオペラ」を日本でも目指し、オペラの魅力を伝え広める活動にこれからも励んでいきたいです。



上/2022年調布市民オペラ「カルメン」リハーサル
下/JZ Bratにて オペラと邦楽のコラボ



© Namiko Kitaura



さらなる飛躍を目指して

もりた けいすけ
森田 啓介 [チェロ] 2018, 2019年度奨学生
ザール音楽大学大学院

ドイツのザールブリュッケンに留学をはじめて早くも4年が経過しようとしています。リヴィニウス先生に師事してから弓の使い方や音楽の流れなど、一から自分の音楽を見つめ直し、今年は3つのコンクールに挑戦し、賞もいただくことができました。引き続きヨーロッパで研鑽を積みコンクールに挑戦するつもりです。たくさんのお会いや刺激を糧とし、これからも自分を信じて成長を続けていけたらと思います。



©Grand Emanuel Feuermann (Clemens Porikys)



上/フォイアマンコンクールの様子
下/メンデルスゾーン全ドイツ音楽大学コンクール ファイナルステージの様子



© Eiji Yamamoto



ジュネーブ国際音楽コンクール

なかはし ゆうき
中橋 祐紀 [作曲] 2020, 2021年度奨学生
パリ国立高等音楽院

2022年10月ジュネーブ国際音楽コンクールに参加し、第2位ならびに若い聴衆賞、学生賞、Nicati-de Luze財団賞をいただきました。素晴らしい音楽家と協働し、自分の作品が一流の作曲家によって審査される経験は大きな財産となりました。特別賞の受賞に伴い、新作の作曲機会もいただいたため、また新しいプロジェクトが進行中です。音楽院での留学も続きますが、学内外で活動ができることに喜びを感じています。



© Anne-Laure Lechat



© Anne-Laure Lechat

コンクール本番前日のリハーサルにて



ジュネーブ国際音楽コンクール入賞

いがらし かおるこ
五十嵐 薫子 [ピアノ] 2018, 2019年度奨学生
桐朋学園大学院

2022年、ジュネーブ国際コンクールにて第3位を受賞することができました！このような歴史ある大きなコンクールで入賞することができ、本当に嬉しいです。このコンクールではたくさんのラッキーが重なり、プログラムを組み立てるときからワクワクしておりました。この結果はロームミュージックファンデーション様をはじめ、たくさんの応援、ご支援くださった方々、先生方、友人たち、家族のおかげです。本当にありがとうございました！これからも音楽で恩返しできるように精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします！



© 井村里人



撮影:ホームステイ先のお母さん



上/ヴィクトリアホールでの本選
下/コンクール期間中は、レマン湖のほとりのお家にホームステイ



クアルテット ベルリン トウキョウの12年間

もりや つよし
守屋 剛志 [ヴァイオリン] 2006年度~2009年度奨学生
東京藝術大学大学院、ハンスアイスラー音楽大学ベルリン

私はいま、カルテットを弾くことがとても楽しいです。クアルテットベルリン トウキョウはこれまでの12年間でいま一番良い状態にあります。音楽を続けてきたのは、全てこのためだったという気がしています。コンサートの記録を見返すたび、聴いてくれる人がいるから続けられることを思います。いつかサントリーホールブルーローズでベートーヴェンの全曲演奏会ができる日を夢見て、続けていきます。



ポツダムでベートーヴェン全曲の祝福



演奏する喜び

かわしま さちこ
川島 幸子 [ソプラノ] 2004年度～2007年度奨学生
ドイツ国立ワイマール“フランク・リスト”音楽大学

2020年から始まったコロナ禍の影響で、演奏活動が思うようにできない状況が続いておりましたが、2022年11月にヨハネ受難曲のソプラノソロを歌った演奏会を皮切りに、ようやく演奏機会が少しずつ戻ってきました。2022年末には主人でピアニストの川島基とのコンサート、そして2023年には、私が准教授として声楽を教えている愛知県立芸術大学の客員教授で元イ・ムジチ管弦楽団のコンサートマスター フェデリコ・アゴスティーニ先生をはじめ、同大学弦楽コースの先生方との共演で、3年ぶりとなるソプラノリサイタルが開催されます。2度の延期を経て開催されるリサイタルなので、演奏できる喜びでいっぱいです。また、今年は10年ぶりとなるCDを録音予定です。



名古屋・電気文化会館でのソプラノリサイタル「川島幸子が歌うミニョン&オフェーリア」のチラシ



©Nayuki Onozaka



留学で得たことを 音楽で還元できた喜びの2022

なかじま あさ
中島 麻 [ヴァイオリン] 2005年度～2007年度奨学生
オーストリア国立ザルツブルク・モーツァルテウム音楽大学

2022年は、イルミナートフィルハーモニーオーケストラ及びトウキョウミタカフィルハーモニアのコンサートマスターとして活動するほか、群馬交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、日本センチュリー交響楽団のゲストコンサートマスター、東京交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団のゲストアシスタントコンサートマスター、ゲスト首席奏者を務めました。2022年の8月には藝科や代官山ミュージックプラザにて独奏をし、また室内楽奏者としても「いのちの電話主催演奏会」に出演いたしました。



上/ローム ミュージック フェスティバルin Tokyo2022 紀尾井ホール
下/ゲストコンサートマスターを務めた仙台フィルハーモニー管弦楽団での公演



©Nayuki Onozaka

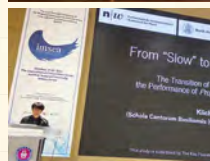


育志賞受賞、そして博士論文執筆

すがぬま きいち
菅沼 起一 [音楽学] 2019、2020年度奨学生
パーゼルスコラ・カントルム

奨学生であった2年を経て、現在の私は博士論文を執筆中です。2021年度は、上皇陛下の御下賜金により設立された日本学術振興会育志賞という賞をいただく(音楽分野では4人目)栄誉にあずかり、研究者として一層研鑽を積み社会に還元してゆく決意を新たにしました。

2023年夏に博士号を取得した後は完全帰国を予定しておりますが、来セメスターも所属校で授業の代理担当をするなど、最後まで充実した経験を得られることに感謝しております。



上 育志賞の賞状
下 国際音楽学会東アジア地域会(韓国、全州)での学会発表



©Shigetō Imura



素敵なご縁に感謝

あらい ゆりな
荒井 優利奈 [ヴァイオリン] 2017、2018年度奨学生
ウィーン国立音楽大学

ウィーンでの留学生活も6年目を迎えました。ソロや室内楽、現代音楽などたくさんの演奏機会に恵まれ、素晴らしいアーティストの方々と共演は大変刺激的でたくさんの経験が私の音楽人生の糧になっていると実感しています。2022年には青山音楽賞新人賞を受賞することができ大変嬉しく思いました。さまざまな国の文化や歴史を肌で感じ、演奏活動もしながら勉強を続けさせていただける環境は本当に幸せで、かけがえのない時間となっています。今後も多くの方々に演奏を聴いていただけるよう、ご縁を大切に日々精進してまいります。



上/クラシック・キャラバン香川公演にて出演者の皆さんと
下/第31回青山音楽賞授賞式での演奏



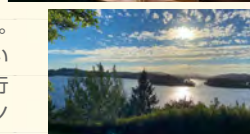
©Andrej Grlc



第17回グリーグ国際ピアノコンクール

いしい みうこ
石井 楓子 [ピアノ] 2016、2017年度奨学生
ケルン音楽大学、パーゼル音楽院

私は現在、日本とスイスを行き来する生活を送っています。2022年第17回グリーグ国際ピアノコンクールで第1位をいただけたことから、2023年は4回ほどノルウェーにも演奏に行きます。コンクールでは思いを出し切り、私の個性や音楽がノルウェーの皆様へ伝わったことが嬉しく、ぜひこの経験を次の演奏会に活かしていければと思っています。



上/本選でベルゲン交響楽団とグリーグのピアノ協奏曲を演奏
下/ベルゲンにてグリーグの家からの風景



©Andrea Antoskova





奨学生レポートより



しみず りょう
清水 伶 [フルート]
2022年度奨学生
ジュネーブ高等音楽院

ジュネーブでジャック・ズーン教授と勉強をはじめて早いもので4年が経過しました。ソリスト、オーケストラ奏者、そして教育者として尊敬する師のもとで大変貴重な時間を過ごしております。

去る2022年11月、彼と出会うきっかけとなった長野県松本市での音楽祭において、はじめて彼とオーケストラの中で共演する機会をいただきました。作品はマーラーの交響曲第9番。第1楽章終盤のフルートソロはとて有名で、オーケストラのオーディションでも頻繁に取り上げられます。ジュネーブでのレッスンは、オーディションの準備のためにオーケストラでのフルートソロ(日本ではオーケストラスタディ、オケスタなどと呼ばれる)を取り上げることがとても多いです。割合にして4分の1くらいを占めるでしょうか。そのため、レッスンの日には10人ほどいるクラスメートのうち数人は「オケスタ」を取り上げています。僕も例に漏れず何度もオケスタをレッスンしていただき、マーラーの交響曲第9番のソロも3度ほど教えていただきました。今回は師匠が真隣でそのソロを吹くということで、リハーサルからワクワクが止まりませんでした。レッスンでもたくさんのお話を教えていただきましたが、やはり実際に吹いている姿を観察するとたくさんの気づきがあります。一番圧倒されたことは、彼の音楽に対するエネルギー。三日間のリハーサルのなかで、彼がエネルギーをセーブして演奏したことはたった一度もありませんでした。この音楽に対する姿勢に改めて感銘を受け、自分も取り入れなければいけないと強く感じました。特に第1楽章のフルートソロの部分では、オーケストラの雑音が揺れ動くほどの凄まじいエネルギーで、毎回放心状態になるほど圧倒されてしまいました。

日本ではしばしば、「教師は生徒のスタイルを矯正(またあるときは強制)するべきではない」という議論が巻き起こります。しかし実際ヨーロッパでは、教師が自らの考え方や演奏の仕方を生徒に多少無理をしても教えこむ、というケースが多いように私は感じています。だからこそ、自分が目指す姿であったり、共感できる音楽を持つ教授のもとで勉強することが非常に大切であると思います。千利休の訓でもある「守破離」という日本でも古くから伝わる芸の修行におけるかたち。これこそが西洋音楽を学ぶ上でも役に立つのではないのでしょうか。

1日目のリハーサルのあと、ズーン先生より「僕らは同じスタイルだから君になにも言う必要がないし、とてもやりやすいよ」とおっしゃっていただきました。まだ彼の次元にはほど遠いですが、さらに吸収しそこから自分のスタイルをつくりあげることができるように勉強を続けてまいります。



終演後、ズーン先生と



ズーン先生との共演



普段のレッスンの様子

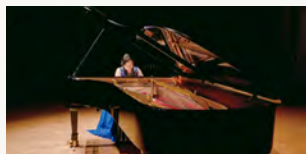


くわはら しおり
桑原 志織 [ピアノ]
2021、2022年度奨学生
ベルリン芸術大学

2022年は新型コロナウイルス感染症による制約が緩和され、充実した一年を過ごすことができました。まず3月の紀尾井ホールのリサイタルは、2021年秋のルービンシュタインコンクールの凱旋コンサート。延期を経てようやく実現した公演でした。2021年に組んだプログラムを一新し、今まさにドイツで学んでいる現在進行形の曲を取り上げて、今後の私のピアノ道の幕開けとなるようリサイタルを開催することができました。

7月はルービンシュタインコンクール本部のお招きで、イスラエルの3都市にてリサイタルを行いました。そのうちレホボトでは当日、満場の拍手をいただき無事リサイタルが終わると、ステージに用意された椅子に座って1対1のトークセッションがありました。さまざまな質問がありましたが高でも大変だったのは、「日本人として身についた日本文化が、西洋音楽を演奏する上でどう役に立っていますか」という質問と、「あなたのインタビューで『コンクールのファイナルステージのリハーサルでラフマニノフのピアノ協奏曲第3番を演奏したとき、イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の前奏を聴いて、練習してきた自分の弾き方をその場で変えて演奏した」とありましたが、どんな影響を受けてどんな風に変えたのですか?』という質問でした。前者はお能や茶道などにおける間合いの重要性に触れながらお答えしました。後者はイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の得も言われぬ豊潤な音楽に感激して変化した自分の心境を、脳内をフル回転させながらお話ししました。かくのごとくイスラエルの人々はお話好きで、明るくとても親切です。コンクールから約1年、再びリサイタルを通して現地の方々や音楽を分かち合い、交流を深めたことは何物にも代えがたい経験となりました。

9月には杉並公会堂大ホールにて、小林研一郎先生指揮×日本フィルハーモニー交響楽団様とチャイコフスキーのピアノ協奏曲第1番を共演いたしました。チケットは8月に完売となり、ご期待にこたえたいと練習を重ねて臨みました。開演直前にピアノの低弦が切れたため開演が遅れましたが、小林マエストロは「こういう珍しいハプニングがあるときは良い演奏ができるんですよ」とおっしゃいました。このプラス思考の眩きで一瞬にして気持ちがなごみました。さすが百戦錬磨のマエストロ。本番は良い集中で皆様と素晴らしい演奏ができて最高に幸せでした。2023年もコンチェルトの機会に恵まれ、新しいピアノ協奏曲を練習中です。応援していただいた一つ一つの演奏会に心からの感謝を込めて、これからも全力で邁進してまいります。



紀尾井ホールリサイタルより



イスラエルでのカーテンコール



エルサレム 嘆きの壁にて



9月の終演後、ホールホワイエにて



ローム ミュージック ファンデーション ブログでも、現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。
<https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/>



ROHM CLASSIC SPECIAL オペラの扉 2022 ～プッチーニのヒロインたち～



プッチーニのヒロインたち。

今年で6回目を迎える今回は「プッチーニのヒロインたち。」と題し、新国立劇場が制作したオペラの中からプッチーニ作品のヒロインたちにスポットをあて、作中での人物像や聴きどころのアリアなどを、舞台写真や衣裳、小道具等とともにご紹介しました。

- 開催期間：2022年9月13日(火)～2022年12月4日(日)
- 場所：ROOMシアター京都 ミュージックサロン、1階プロムナード
- 主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ROOM ミュージック ファンデーション
- 共催：公益財団法人新国立劇場運営財団、ROOM株式会社

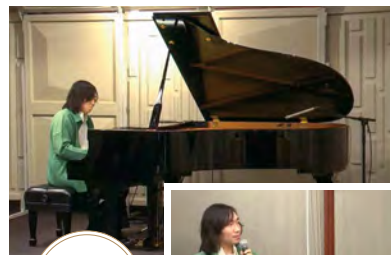


オペラの扉特設WEBサイトはこちら



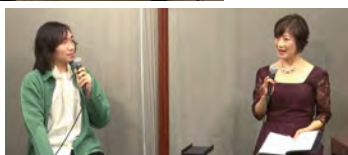
ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート 阪田知樹が贈る、ピアノで巡る世界旅行

- 収録日：2022年12月25日(日)
- 出演：ピアノ／阪田 知樹 (ROOM ミュージック ファンデーション2019、2020年度奨学生)
- 司会／岩崎 里衣
- 曲目：ラヴェル作曲 亡き女王のためのパヴァーヌ 他



アーカイブWEBサイトはこちら

アーカイブ配信中



ROHM CLASSIC SPECIAL トーク&コンサート 阪田知樹が贈る、ピアノで巡る世界旅行

Program
 亡き女王のためのパヴァーヌ (ラヴェル)
 小夜曲 (モーツァルト)
 夜想曲 Op.9-5 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-15 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-18 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-24 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-29 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-30 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-32 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-34 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-35 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-36 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-37 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-38 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-39 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-40 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-41 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-42 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-43 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-44 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-45 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-46 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-47 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-48 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-49 (ショパン)
 夜想曲 Op.9-50 (ショパン)

2022年 12月25日(日) 17:00 ライブ配信開始(特設プログラム)
 【オンラインコンサート＜無料ライブ配信＞】
 配信：ROOMシアター京都 ミュージックサロン(1階プロムナード) 17:00～19:00

オンラインコンサート開催予定
 12月25日(日) 17:00～19:00
 配信：ROOMシアター京都 ミュージックサロン(1階プロムナード) 17:00～19:00

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ROOM ミュージック ファンデーション
 共催：公益財団法人新国立劇場運営財団、ROOM株式会社
 会場：ROOMシアター京都 ミュージックサロン(1階プロムナード) 17:00～19:00
 観覧料：無料(17歳未満は有料) 17歳未満は100円(税込)
 観覧料：無料(17歳未満は有料) 17歳未満は100円(税込)

ROHM CLASSIC SPECIAL 小澤征爾音楽塾展2023

小澤征爾音楽塾が18年ぶりにお届けする「ラ・ボエーム」。新制作となる作品の見どころ、若い音楽家たちを導く首席指揮者の素顔、演出を支えるセットと衣裳デザインをご紹介しました。

ROHM CLASSIC SPECIAL 小澤征爾音楽塾展2023

小澤征爾音楽塾が18年ぶりにお届けする「ラ・ボエーム」。新制作となる作品の見どころ、若い音楽家たちを導く首席指揮者の素顔、演出を支えるセットと衣裳デザインをご紹介しました。

2023年1月14日(土)～3月26日(日)

ROOMシアター京都【ミュージックサロン】
 (1階プロムナード) 10:00～17:00 [入場無料]
 (1階プロムナード) 10:00～17:00 [入場無料]
 (1階プロムナード) 10:00～17:00 [入場無料]

主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人ROOM ミュージック ファンデーション
 共催：ROOM株式会社
 協力：株式会社ヴェローザ・ジャパン

- 開催期間：2023年1月14日(土)～2023年3月26日(日)
- 場所：ROOMシアター京都 ミュージックサロン、1階プロムナード
- 主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ROOM ミュージック ファンデーション
- 共催：ROOM株式会社
- 協力：株式会社ヴェローザ・ジャパン



奨学生一覧

(各分野五十音順)

ヴァイオリン/115人
 青木 尚佳
 青谷 友香里
 アシュリー マリア アヤ
 東 珠子
 荒井 優利奈
 安彦 千恵
 伊賀 あや
 石橋 幸子
 石原 悠企
 泉原 隆志
 礪 絵里子
 糸井 真紀
 伊藤 文乃
 井上 奈央子
 上野 明子
 植村 太郎
 植村 菜穂
 植村 理葉
 牛草 春
 エリック・シューマン
 尾池 亜美
 王 中男
 大江 馨
 大岡 仁
 大島 莉紗
 大関 万結
 大谷 玲子
 岡崎 慶輔
 岡本 慶司
 小川 恭子
 小野 明子
 榎本 大進
 加野 景子
 神尾 真由子
 神谷 未穂
 川村 奈菜
 木嶋 真優
 岸本 萌乃加
 北川 千紗
 橋和 美優
 城戸 かれん
 木村 悦子
 清永 あや
 日下 紗矢子
 倉富 亮太
 黒川 侑
 郷古 廉
 小林 杏成
 小林 美緒
 小林 美樹
 佐橋 まどか
 佐々木 つくし
 佐藤 久成
 篠原 悠那

志満 直美
 島田 真千子
 島原 早恵
 清水 有紀
 白井 麻友
 菅井 京子
 鈴木 愛理
 鈴木 舞
 周防 亮介
 関 朋岳
 高木 凜々子
 滝 千春
 瀧村 依里
 田島 悠子
 立上 舞
 田中 晶子
 田中 晶子
 谷本 華子
 玉井 菜採
 千葉 水晶
 辻 彩奈
 坪井 夏美
 東條 太河
 土岐 祐奈
 長尾 春花
 大島 麻
 中村 太地
 成田 輝輝
 西川 茉莉奈
 西澤 和江
 二瓶 真悠
 服部 百音
 林 悠介
 原 麻里亜
 原田 亮子
 東 亮汰
 福田 麻子
 福田 廉之介
 藤江 扶紀
 外村 理紗
 本田 莉愛
 前田 志乃
 正戸 里佳
 松川 暉
 松田 理奈
 三上 亮
 村田 美英
 守屋 文香
 毛利 剛志
 森山 まひる
 安田 理沙
 矢野 玲子
 山根 一仁
 梁 美沙
 弓 新

湯本 亜美
 吉江 美桜
 吉田 南
 吉本 梨乃
 米元 響子
 渡邊 ゆづき
ヴィオラ/13人
 赤坂 智子
 有富 萌々子
 大野 若菜
 金丸 葉子
 坂口 翼
 杉田 恵理
 瀧本 麻衣子
 田原 綾子
 中島 悦子
 原 麻理子
 牧野 葵美
 山崎 智子
 渡邊 千春
チェロ/42人
 伊東 裕
 伊藤 悠貴
 泉 優志
 上野 通明
 植村 葉夏
 江口 心一
 遠藤 真理
 岡本 侑也
 瀧本 実里
 香月 麗
 加藤 文枝
 門脇 大樹
 上村 文乃
 唐沢 安岐奈
 熊澤 雅樹
 佐々木 鞠望
 笹沼 樹
 佐藤 晴真
 佐山 裕樹
 柴田 花音
 高木 慶太
 辻本 玲
 鳥羽 咲音
 中木 健二
 長谷川 彰子
 林 裕
 櫃本 瑠音
 平野 朝水
 藤井 泉
 藤原 秀章
 堀江 牧生
 松山 翔子
 マーク・シューマン
 水野 優也

三井 静
 峰本 更
 宮田 大
 森田 啓佑
 山上 ジョアン 薫
 山本 徹
 横坂 源
 渡邊 方子
クラシックギター/6人
 齋藤 優貴
 谷辺 昌央
 藤元 高輝
 松本 大樹
 山下 愛陽
 山田 唯雄
ヴィオラ・ダガンバ/1人
 酒井 淳
フルート/23人
 阿部 礼奈
 井坂 実樹
 石井 希衣
 若瀬 桐子
 上野 星矢
 大久保 彩子
 久保 順
 倉田 優
 小山 裕幾
 清水 伶
 庄田 奏美
 瀧本 実里
 竹山 愛
 中村 薫
 萩原 貴子
 藤井 香織
 本宮 湖心
 増本 竜士
 森岡 有裕子
 八木 瑛子
 山本 英
 若林 かをり
 渡邊 玲奈
オーボエ/5人
 荒 絵理子
 岡山 理絵
 鷹栖 美恵子
 田代 奏子
 本多 啓佑
クラリネット/10人
 梅原 希枝
 金子 平
 小林 知世
 小山 洋子
 白子 正樹
 辻本 聡子
 中川 知美

原田 綾子
 福田 さあや
 吉田 誠
サクソフォン/2人
 住谷 美帆
 中島 諒
ファゴット/4人
 小山 莉絵
 中野 陽一郎
 藤村 踊子
 保崎 佑
トランペット/3人
 菊本 和昭
 佐藤 友紀
 三村 梨紗
トロンボーン/2人
 清水 真弓
 山本 浩一郎
ユーフォニアム/2人
 安東 京平
 佐藤 采香
打楽器/5人
 池上 英樹
 岩見 玲奈
 沓野 勢津子
 通崎 睦美
 福山 直子
ハープ/5人
 景山 梨乃
 シュレイファー 弓子
 高野 麗音
 林 千佳世
 福井 麻衣
パイプオルガン/1人
 椎名 雄一郎
チェンバロ/2人
 北御門 はる
 脇田 英里子
ピアノ/149人
 秋山 紗穂
 浅野 未麗
 有吉 亮治
 渡邊 玲奈
 五十嵐 薫子
 石井 楓子
 石川 武蔵
 石田 啓明
 石村 純
 乾 絵美
 今井 彩子
 今田 篤
 入江 一雄
 岩本 恵理
 梅崎 秀
 梅村 知世
 江澤 茂敏
 江尻 南美

岡田 奏
 大井 浩明
 大崎 結真
 太田 糸音
 大西 真由子
 岡本 麻子
 奥田 晓仁
 奥村 友美
 小沢 麻由子
 尾城 杏奈
 越知 晴子
 小野田 有紗
 海瀬 京子
 開原 由紀乃
 梯 剛之
 柏原 佳奈
 加藤 大樹
 加藤 洋之
 加野 瑞夏
 神野 千恵
 亀井 聖志
 河内 仁志
 川崎 翔子
 川島 基
 川田 健太郎
 河村 尚子
 菊地 裕介
 菊池 洋子
 木口 雄人
 喜多 宏丞
 清塚 信也
 日下 知奈
 工藤 奈帆美
 久保 千尋
 倉澤 杏菜
 黒岩 航紀
 黒田 哲平
 桑原 志織
 小井土 文哉
 高 実希子
 壽 千明
 小林 愛実
 小林 有沙
 小林 海都
 齊藤 一也
 阪田 知樹
 坂本 真由美
 崎谷 明弘
 今田 篤
 入江 一雄
 岩本 恵理
 梅崎 秀
 梅村 知世
 江澤 茂敏
 江尻 南美

柴垣 英二
 志鷹 美紗
 釈迦部 洋介
 白川 多紀
 進藤 実優
 菅野 雅紀
 鈴木 謙一郎
 住友 郁治
 関本 昌平
 芹澤 佳司
 反田 恭平
 高田 匡隆
 高橋 礼恵
 内匠 慧
 田中 香織
 田中正也
 谷 昂登
 田村 響
 千葉 遥一郎
 津嶋 啓一
 津田 裕也
 鶴見 彩
 土居 知子
 中尾 純
 中川 優芽花
 中桐 望
 中島 彩
 長瀬 賢弘
 中元 千鶴
 奈良 希愛
 新美 光映
 沼澤 淑音
 野上 真梨子
 萩原 麻未
 橋本 尚
 服部 慶子
 花岡 克典
 浜野 与志男
 林田 麻紀
 樋口 一朗
 久未 航
 日高 志野
 平松 悠步
 福田 和子
 藤田 真央
 古海 行子
 真隅 政大
 松尾 久美
 松岡 淳
 松本 和将
 丸山 耕路
 丸山 凪乃
 萬谷 衣里
 Elezovic MIA
 三浦 友理枝

三戸 あけみ
 三宅 麻美
 宮下 彩子
 宮田 理生
 務川 慧悟
 村田 理夏子
 村松 珠美
 望月 晶
 森田 義史
 矢島 愛子
 山縣 美季
 山田 剛史
 山本 亜希子
 吉兼 加奈子
 ティーテン 吉川 右希子
 吉田 友昭
 吉武 優
 吉見 友貴
 米津 真浩
 李 早恵
 リード 希亜奈
 脇岡 洋平
オルガン/2人
 福本 茉莉
 宗 かおり
声楽/64人
 石井 教子
 市原 愛
 乾 麻里子
 上杉 清仁
 江口 輝博
 大島 京子
 岡田 昌子
 加藤 幸幸
 加藤 麻衣
 上島 緑
 川島 幸子
 川原 成子
 木下 周子
 木下 美穂子
 木村 善明
 木村 里花子
 蔵田 みどり
 栗原 峻希
 小玉 晃
 小林 沙羅
 近藤 圭
 崔 宗宝
 坂本 知亜紀
 志摩 大喜
 清水 俊徳
 清水 勇磨
 周 江平
 杉原 かおり
 鈴木 愛美

高橋 維
 田邊 織恵
 谷口 伸
 谷村 由美子
 田村 麻子
 趙 非
 津國 直樹
 辻 裕久
 寺田 功治
 矢島 愛子
 富岡 明子
 中川 恵美里
 中嶋 俊晴
 中島 康晴
 嶋海 真希子
 林 佑子
 深瀬 廉
 藤木 大地
 藤谷 佳奈枝
 本田 智衣
 又吉 秀樹
 松島 理紗
 松原 友
 真野 路津紀
 溝淵 悠理
 峯島 望美
 宮里 直樹
 森野 美咲
 山下 新吾
 山本 美央
 吉澤 淳
 吉田 一貴
 吉田 貴子
 藍 野流
 李 恩敬
指揮/22人
 粟辻 聡
 石川 星太郎
 伊藤 翔
 垣内 悠希
 戸祭 哲子
 岸本 有理
 鬼原 良尚
 齊藤 一郎
 阪部 慎太郎
 篠崎 靖男
 下野 竜也
 杉本 優
 橋直貴
 田中 祐子
 寺岡 清高
 阪 哲朗
 三ツ橋 敬子
 村上 寿昭
 村中 大祐

森 香織
 森口 真司
 森田 宏樹
作曲/24人
 阿部 俊祐
 稲森 安太己
 今井 智景
 小野田 健太
 北爪 裕道
 木下 正道
 小出 稚子
 酒井 健治
 坂田 直樹
 塚本 瑛子
 中川 佐織
 中橋 祐紀
 夏田 昌和
 朴 炳五
 福丸 光詩
 松宮 圭太
 松本 直祐樹
 マットウメル
 向井 響
 向井 航
 山口 敏
 山口 革
 渡邊 愛
 渡辺 裕紀子
教会音楽/1人
 小山田 薫
音楽学/18人
 金 士友
 貞方 マキ子
 周 耘
 白石 悠里子
 菅沼 起一
 関本 菜穂子
 園田 みどり
 高野 裕子
 東田 範子
 戸祭 哲子
 中村 伸子
 西村 理
 畑野 小百合
 早坂 敦子
 丸山 瑠子
 村田 圭代
 山本 明尚
 李 金叶
オペラ演出/4人
 井原 広樹
 郭 才銀
 馬 金泉
 森岡 純子



ローム ミュージック フレンズ No.15
—ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌—

発行 2023年3月

企画・発行：公益財団法人 ロームミュージックファンデーション
〒615-0046 京都市右京区西院西溝崎町44
TEL(075)311-7710 FAX(075)311-0089
<https://micro.rohm.com/jp/rmf/>

協 賛： **ローム株式会社**

この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。

2023.3.7K

